

化学品の名称	ロイヤルタップG
作成日	2017年 2月13日
改訂日	

安全データシート

【1. 化学品及び会社情報】

化学品の名称	:	ロイヤルタップG
製品コード	:	E-z024
会社名	:	日本メカケミカル株式会社
住所	:	愛知県豊川市穂ノ原3丁目2番23
電話番号	:	(0533) 84-3245
緊急連絡電話番号	:	(0533) 84-3245
FAX番号	:	(0533) 84-3429
電子メールアドレス	:	collect@nichi-mecha.co.jp
推奨用途と使用上の制限	:	難加工材用切削油剤

【2. 危険有害性の要約】

GHS分類

物理化学的危険性	爆発物	分類対象外	
	可燃性／引火性ガス	分類対象外	
	可燃性／引火性エアゾール	分類対象外	
	支燃性／酸化性ガス	分類対象外	
	高压ガス	分類対象外	
	引火性液体	区分外	
	可燃性固体	分類対象外	
	自己反応性化学品	分類できない	
	自然発火性液体	区分外	
	自然発火性固体	分類対象外	
	自己発熱性化学品	分類できない	
	水反応可燃性化学品	区分外	
	酸化性液体	分類できない	
	酸化性固体	分類対象外	
	有機過酸化物	分類対象外	
	金属腐食性物質	分類できない	
	健康に対する有害性	急性毒性（経口）	分類できない
		急性毒性（経皮）	分類できない
		急性毒性（吸入：ガス）	分類対象外
急性毒性（吸入：蒸気）		分類できない	
急性毒性（吸入：粉塵）		分類対象外	
急性毒性（吸入：ミスト）		分類できない	
皮膚腐食性／刺激性		分類できない	
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性		区分2B	
呼吸器感作性		分類できない	
皮膚感作性		区分1	
生殖細胞変異原性		分類できない	
発がん性		分類できない	
生殖毒性		区分2	
特定標的臓器／全身毒性（単回ばく露）		分類できない	
特定標的臓器／全身毒性（反復ばく露）		分類できない	
環境に対する有害性	吸引性呼吸器有害性	区分1	
	水生環境有害性・急性	分類できない	
	水生環境有害性・慢性	分類できない	

化学品の名称	ロイヤルトップG
作成日	2017年 2月13日
改訂日	

オゾン層への有害性

分類できない

ラベル要素

絵表示又はシンボル

: 感嘆符 健康有害性



注意喚起語

: 危険

危険有害性情報

: 眼刺激

アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ

注意書き

: 【安全対策】

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
ミスト／蒸気の吸入を避けること。
取扱い後はよく手を洗うこと。
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

【応急措置】

飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。無理に吐かせないこと。

皮膚に付着した場合：多量の水と石けん（鹼）で洗うこと。皮膚刺激又は発しん（疹）が生じた場合：医師の診断／手当てを受けること。汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合：医師の診断／手当てを受けること。

ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診断／手当てを受けること。

【保管（貯蔵）】

施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物／容器を国際、国、都道府県、又は市町村の規則に従って廃棄すること。

【3. 組成、成分情報】

単一製品・混合物の区別
成分及び含有量

: 混合物

化学名 又は一般名	濃度 (%)	CAS 番号	官報公示 整理番号		PRTR 法	労働安全 衛生法	毒物劇物 取締法
			化審法	安衛法			
鉱油	20~25	特定 できない	既存	既存	非該当	表示・通知	非該当
脂肪酸 エステル	非公開	非公開	既存	既存	非該当	非該当	非該当
塩素系 極圧添加剤	非公開	非公開	既存	既存	非該当	非該当	非該当

化学品の名称	ロイヤルトップG
作成日	2017年 2月13日
改訂日	

燐系 極圧添加剤	非公開	非公開	既存	既存	非該当	非該当	非該当
硫黄系 極圧添加剤	非公開	非公開	既存	既存	非該当	非該当	非該当
防錆剤	非公開	非公開	既存	既存	非該当	非該当	非該当

不純物及び安定化添加物 : 情報なし

【4. 応急措置】

- 吸入した場合 : 新鮮な空気のある場所に移す。身体を毛布などで覆い、保温して安静に保ち、必要なら医師の手当を受けること。
- 皮膚に付着した場合 : 多量の水と石けん(鹸)で洗うこと。皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合、医師の診断/手当てを受けること。汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
- 眼に入った場合 : 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合、医師の診断/手当てを受けること。
- 飲み込んだ場合 : 直ちに医師に連絡すること。無理に吐かせないこと。口の中が汚染されている場合には、水で十分に洗うこと。
- 急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候症状 : 飲み込むと、下痢、嘔吐する可能性がある。
目に入ると炎症を起こす可能性がある。
皮膚に触れると炎症を起こす可能性がある。
ミストを吸入すると気分が悪くなる事がある。
- 応急措置をする者の保護 : 人的リスクを伴うような行動、または適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。救急者は、適切な保護具を着用する。
- 医師に対する特別注意事項 : 現在までのところ有用な情報無し。

【5. 火災時の措置】

- 消火剤 : 霧状の強化液、泡、粉末又は炭酸ガス消火剤が有効である。
- 使ってはならない消火剤 : 消火に棒状の水を用いてはならない。火災を拡大し危険な場合がある。
- 特有の危険有害性 : 燃焼ガスには、一酸化炭素、塩素ガス、硫酸化物等の有毒ガスが含まれるので、消火作業の際には、煙の吸入を避ける。火災の際や加熱された場合、圧力の上昇が起こり容器が破裂することがある。
- 特有の消火方法 : 1. 火元への燃焼源を断つ。
2. 初期の火災には粉末、炭酸ガス消火剤を用いる。
3. 周囲の設備などに散水して冷却する。
4. 火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。
- 消火を行なう者の保護 : 消火作業は、吸入、暴露を避けるため風上より行い、空気呼吸器又は、防毒マスク及び不浸透性の保護衣等を着用する。

【6. 漏出時の措置】

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 目・皮膚・衣服との接触を避ける。
作業の際には、必ず保護具を着用する。
付近の着火源となるものは速やかに取り除く。

化学品の名称	ロイヤルトップG
作成日	2017年 2月13日
改訂日	

- 環境に対する注意事項 : 漏出した物質や流去水の拡散、および土壌、水路、排水溝、下水道との接触を回避する。製品が環境汚染（排水、水路、土壌または大気）を起したときは、関係する行政当局に報告する。
- 封じ込め及び浄化の方法・機材 : 1. 周辺の着火源を速やかに取り除く。
2. 少量の場合は、土砂、ウエス等に吸収させ回収し、その後を完全にウエスで拭き取る。
3. 大量の場合は、漏油下場所の周辺にはロープを張るなどして、人の立ち入りを禁止する。漏洩した液は土砂等でその流れを止め、安全な場所に導いた後、出来るだけ空容器等に回収する。
4. 海上の場合、オイルフェンスを展開して拡散を防止し、吸着マット等で吸い取る。薬剤を用いる場合には国土交通省令・環境省令で定める技術上の基準に適合したものでなければならない。
- 二次災害の防止策 : 漏洩時は事故の未然防止及び拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。

【7. 取扱い及び保管上の注意】

取扱い

技術的対策

- : 容器を転倒させたり、衝撃を与えるなどの粗暴な取り扱いはしないこと。
容器は必ず密閉すること。
静電気、衝撃火花などによる着火源の生じないように注意すること。
皮膚にふれないよう、目に入らないよう、また蒸気を吸入しないように注意すること。
必要に応じ保護具を着用すること。
危険物が残存している機械設備などを修理する場合は、安全な場所において、危険物を完全に除去した後に行うこと。
局所排気装置・全体換気については8. 暴露防止及び保護措置を参照。

安全取扱注意事項

- : 類の異なる危険物（ハロゲン類・強酸類・アルカリ類・酸化性物質）との接触を避けること。

保管

安全な保管条件

- : 保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、器具類はアースをとること。
熱、スパーク、火炎ならびに静電気の蓄積を避けること。
異物混入のないこと。
類の異なる危険物（ハロゲン類・強酸類・アルカリ類・酸化性物質）との同一場所での保管を避けること。
指定数量以上の量を保管する場合は、消防法で定められた基準に満足する貯蔵所に保管する。
直射日光を避け、換気のよい場所に保管し、高温物を近づけないこと。

安全な容器包装材料

- : 別の容器に移し替えるときは、ステンレスを推奨する。

化学品の名称	ロイヤルトップG
作成日	2017年 2月13日
改訂日	

【8. 暴露防止及び保護措置】

- 許容濃度 [鉍油] : 日本産業衛生学会 (2010年度版) $3 \text{ mg} / \text{m}^3$
ACGIH (2010年度版)
TLV-TWA $5 \text{ mg} / \text{m}^3$
- 設備対策 : ミストが発生する場合は、発生源の密閉化、又は排気装置を設ける。
- 適切な保護具
- 呼吸器の保護具 : 通常必要でないが、必要に応じて防毒マスク (有毒ガス用) を着用する。
- 手の保護具 : 長期間または繰り返し接触する場合には、耐油性の手袋を着用する。
- 目の保護具 : 飛沫が飛ぶ場合には普通型眼鏡を着用する。
- 皮膚及び身体の保護具 : 長期間にわたり取り扱う場合又は濡れる場合には、耐油性の長袖作業服等を着用する。濡れた衣服は直ちに脱ぎ、完全に清浄にしてから再使用する。

【9. 物理的及び化学的性質】

- 外観 : 暗緑色液体
- 臭い : 特異臭
- 臭いのしきい (閾) 値 : データ無し
- pH : 非該当
- 融点/凝固点 : データ無し
- 沸点、初留点と沸騰範囲 : データ無し
- 引火点 : 145°C
- 蒸発速度 : データ無し
- 燃焼性 (固体, 気体) : データ無し
- 燃焼又は爆発範囲 (上限, 下限) : データ無し
- 蒸気圧 : データ無し
- 蒸気密度 : データ無し
- 比重 (15°C) : $0.97 \text{ g} / \text{cm}^3$
- 溶解度 : 水に不溶
- オクタノール/水分配係数 : データ無し
- 自然発火温度 : データ無し
- 分解温度 : データ無し
- 動粘度 (40°C) : $19 \text{ mm}^2 / \text{s}$

【10. 安定性及び反応性】

- 反応性、化学的安定性 : 安定
- 危険有害反応可能性 : 適切に保管し、取り扱いえば有害反応は起きない。
- 避けるべき条件 : 燃焼
- 混触禁止物質 : ハロゲン類・強酸類・アルカリ類・酸化性物質
- 危険有害な分解生成物 : 燃焼の際は煙、一酸化炭素、塩素ガス、硫黄酸化物、りん酸化物、窒素酸化物等が生成される。

化学品の名称	ロイヤルトップG
作成日	2017年 2月13日
改訂日	

【1 1. 有害性情報】

急性毒性 [鉍油]	:	LD ₅₀ 5,000mg/kg以上 (ラット経口) LD ₅₀ 5,000mg/kg以上 (ラット経皮) LC ₅₀ 5mg/L以上/4h (ラット吸入:ミスト)
皮膚腐食性/刺激性	:	[鉍油] 区分外
眼に対する重篤な損傷/眼刺激性	:	[鉍油] 区分外
呼吸器感作性	:	[鉍油] 分類できない
皮膚感作性	:	[鉍油] 区分外
生殖細胞変異原性	:	[鉍油] 区分外
発がん性	:	[鉍油] 区分外
生殖毒性	:	[鉍油] 区分外
特定標的臓器/全身毒性 (単回ばく露)	:	[鉍油] 区分外
特定標的臓器/全身毒性 (反復ばく露)	:	[鉍油] 区分外
吸引性呼吸器有害性	:	[鉍油] 区分1

【1 2. 環境影響情報】

生態毒性	:	(水生環境有害性・急性) [鉍油] 区分外 (水生環境有害性・慢性) [鉍油] 区分外
残留性/分解性	:	現在までのところ有用な情報無し。
生体蓄積性	:	現在までのところ有用な情報無し。
土壤中の移動性	:	現在までのところ有用な情報無し。
オゾン層への有害性	:	[鉍油] 分類できない
他の有害影響	:	排出規制 (油分)

【1 3. 廃棄上の注意】

残余廃棄物	:	都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託して処理する。投棄禁止。
汚染容器・包装	:	都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託して処理する。投棄禁止。

【1 4. 輸送上の注意】

国際規制		
国連番号	:	非該当
品名	:	非該当
国連分類	:	非該当
容器等級	:	非該当
海洋汚染物質	:	非該当
MARPOL 73/78 附属書II 及び IBC コードによるばら 積み輸送される液体物質	:	非該当
国内規制		

化学品の名称	ロイヤルトップG
作成日	2017年 2月13日
改訂日	

- 海上規制情報 : 非危険物
航空規制情報 : 非危険物
陸上規制情報 : 消防法（第四類第三石油類）に従い、積載・輸送を行う。
特別の安全対策 : 容器毎に、栓の締まり具合、漏れの無い事を確認し、容器の転倒・落下・摩擦等損傷が無い様に積み込み、荷崩防止を確実にを行う。

【15. 適用法令】

- 労働安全衛生法 : 労働安全衛生法施行令
名称等を表示すべき危険物及び有害物（鉱油）
名称等を通知すべき危険物及び有害物（鉱油）
消防法 : 危険物第四類第三石油類（非水溶性）
水質汚濁防止法 : 排水基準を定める総理府令
下水道法 : 施行令

【16. その他の情報】

記載内容は現時点で入手できる資料、データに基づいて作成しており、新しい知見により改訂されることがあります。また、注意事項は通常の手配を対象としたものであって、特殊な取扱いの場合は、用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用ください。記載内容は情報提供であって、保証するものではありません。